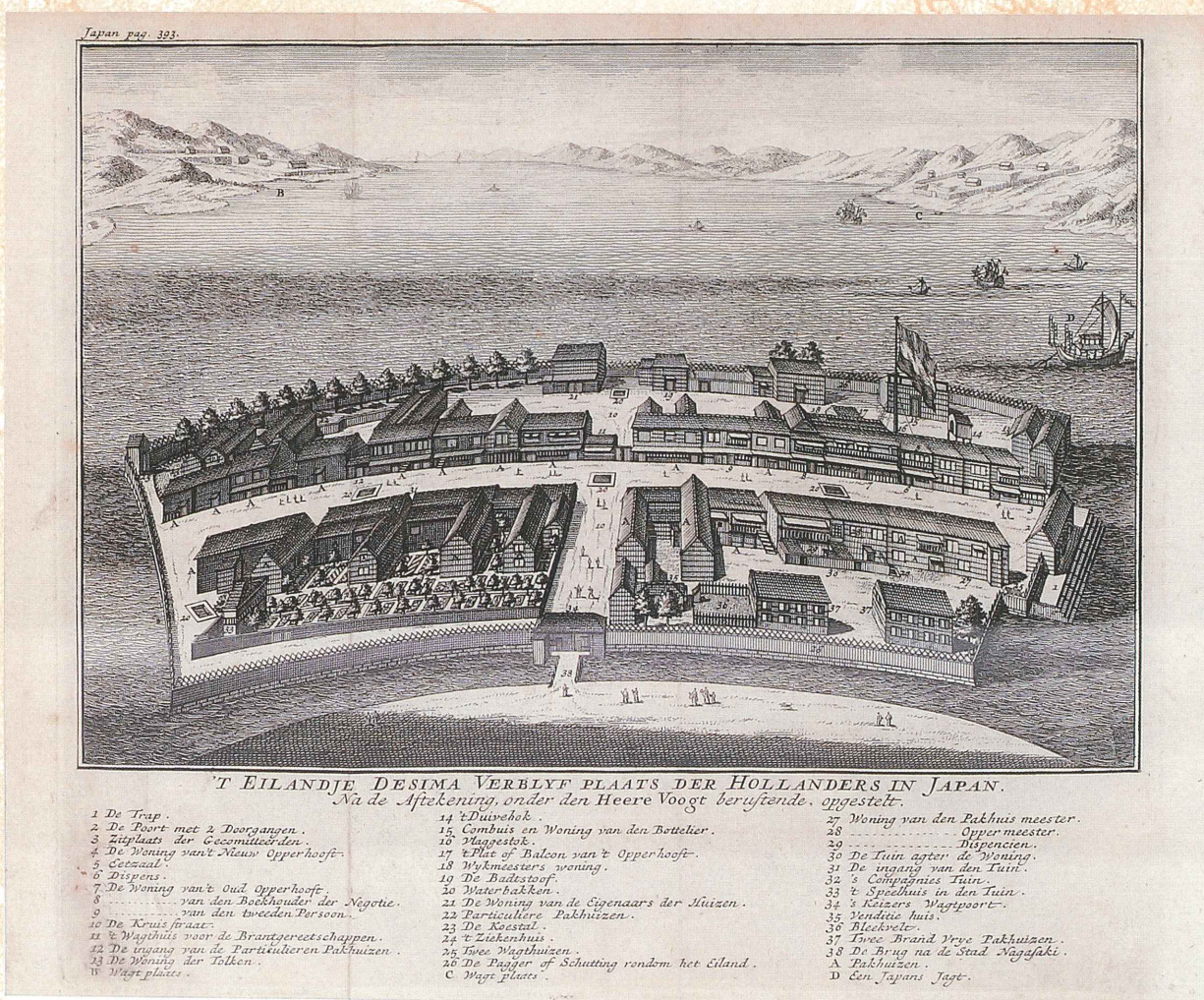


異国イメージⅠ

—紅毛人から阿蘭陀人へ—

近世日本は、幕府の禁教政策により、出島でオランダ人、唐人屋敷で中国人が生活していた。制限された空間のなかで、それぞれの営みがあり、日本でありながらそこには異国文化が広がっていた。また、彼らは日本人の興味の対象となっており、多くの美術工芸品が創出された。そこで、本展覧会では、近世日本に滞在を許されたオランダ人を日本人がどうとらえていたのか。また、開国により日本人のなかでどのような対外的認識が芽生えたのかについて紹介していく。



1. 出島図 1735年頃

1636年に島町人25名が出資してポルトガル人を収容するために出島は作られた。しかし、鎖国令によってポルトガル人が追放されて空き地となると、1641年に平戸からオランダ商館が移転される。こうして、オランダ人は出島での生活を余儀なくされることになるが、本資料は18世紀中ごろの出島を描いたものである。